

岩泉観光ガイド協会 平成26年度活動報告

町として本州一の広さを誇る岩泉町は、面積の約93%が森林に覆われ、西端は盛岡市との境界に位置する早坂高原、東端の小本地区は太平洋に接します。中心部にそびえる宇霊羅山が町のシンボル。東麓には日本三大鍾乳洞のひとつである龍泉洞が開口し、その名を冠した「うれいら商店街」の古さを残す佇まいが郷愁を誘います。

このように様々な面を持つ岩泉町を内外に幅広くPRすることを目的とし、岩泉観光ガイド協会は平成24年2月に設立しました。町内で個別に活動していたガイド団体がそれぞれ部会となって組織し、当初は以下の4部会で活動を開始しました。

1. まちなか部会

「てどの蔵」で昔ながらの手仕事にも触れられる、うれいら商店街のまちなか案内人

2. 山野草部会

空気の澄んだ散策路で、季節ごとの多彩な景色に癒される早坂高原の山野草ガイド

3. 海部会

漁師のガイドで船上から海岸を臨むモシ竜ロマン・クルーズ乗船体験と、景勝地や津波の痕跡を辿る三陸海岸探訪ハイキング

4. 山部会

宇霊羅山、毛無森、安家の3コース。森林浴をしながら人と自然の関わりを感じる里山トレッキング



早坂高原での山野草ガイド

平成26年度には「龍泉洞部会」を設け、5部会による新体制での活動を開始しました。町内外の学校が行う体験学習等を中心に、龍泉洞へは家族や少人数のグループも多く、1年間で5部会を総合しガイド実施回数は109回、延べ1,426人をご案内しました。

活動を続けるうちに、2年、3年と連続でいらっしゃるお客様も増えてきました。さらなる観光客の増加とリピート率上昇を目指し、今後もおもてなしの心でガイドを続けたいと考えています。



まちなか案内人 「てどの蔵」にて



平成26年度から活動開始した龍泉洞ガイド

平成25年、青森・岩手・宮城の3県にまたがる「三陸ジオパーク」が日本ジオパークとして認定されました。岩泉町のジオサイトは、P-T境界層、茂師海岸、龍泉洞・安家洞の3箇所です。平成26年度は各ジオサイトにおいて以下のような活動を行いました。

【P-T境界層】

安家地区において開催された現地研修に参加し、P-T境界層を発見した研究チーム員の高橋聡氏(現：東京大学助教)の貴重なお話を伺いました。地球史上最大の生物大量絶滅事件を記録する深海の地層として、世界的にも重要なものです。

このエリアで連続して見られる地層を比較しながら観察することで、地球がどのように移り変わっていったのかをイメージすることができ、ジオサイトとしての魅力を認識するとともに、各々が地質に関する知識を向上させ、ジオパークをストーリー性豊かにガイドするためのヒントを得られたと感じました。



【龍泉洞・安家洞】

滞在型観光に繋がる新たなガイドコースの構築に向け、江川ドリネをはじめとする龍泉洞の水源地帯を視察しました。自然の中での体験を楽しみながら、湧水やしみ込み地点を見学することで地下水系の流れと不思議さを体感し、龍泉洞に対する興味と理解も深まることが期待できます。



同時に、世界有数の透明度を誇る龍泉洞の水は、水源地帯の自然がなければ得られないことも実感されます。龍泉洞は大きな観光資源であるだけでなく、湧き出る水が町民の生活や様々な産業に利用されています。それらは全てこの岩泉の広大な森林に支えられており、地域の財産として守るべきものであると私たちも再認識しました。

【茂師海岸】

日本初の恐竜化石「モシリユウ」発見の地。白亜紀を物語る地質景観が多く見られ、この海岸線が3.11には津波に襲われる光景へと変わったことも分かります。海部会のガイドでは、津波について知り防災意識を高めることと併せ、脅威だけではない、美しい風景や生活への恵みが海にはあることも伝えていきます。

加えて平成27年度は、青森県八戸市から福島県相馬市までをつなぐ「みちのく潮風トレイル」において、このエリアを通過する区間が開通予定です。今年度も活動の場を広げ、多くのお客様を迎えられるよう、資質の向上に努めてまいります。



茂師海岸でのガイド